

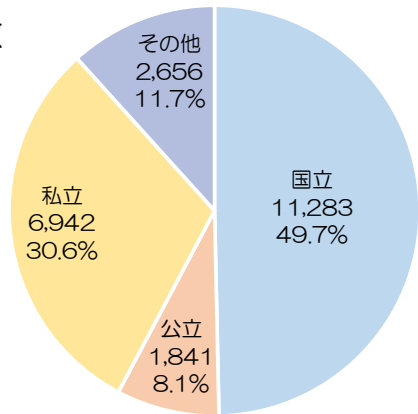
7. 研究(1)

7-1. 科学研究費補助金の研究機関種別配分状況（新規採択分）

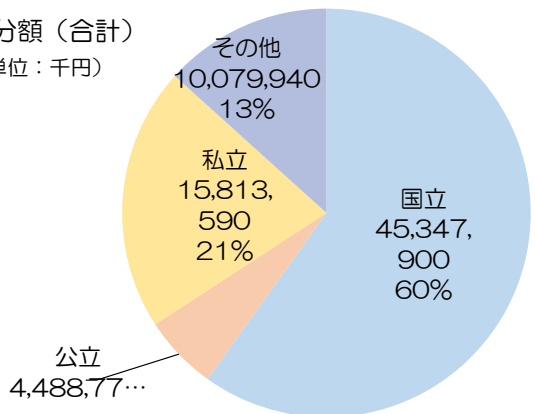
（単位：千円）

	応募件数	採択件数	採択率	応募額	配分額 (直接経費)	配分額 (間接経費)	配分額 (合計)
合 計	78,125	22,722	29.1%	318,906,924	58,254,000	17,476,200	75,730,200
内訳	国立	11,283	49.7%	182,778,755	34,883,000	10,464,900	45,347,900
	公立	1,841	8.1%	19,723,605	3,452,900	1,035,870	4,488,770
	私立	6,942	30.6%	74,105,123	12,164,300	3,649,290	15,813,590
	その他	2,656	11.7%	42,299,441	7,753,800	2,326,140	10,079,940

採択件数
(単位：件)

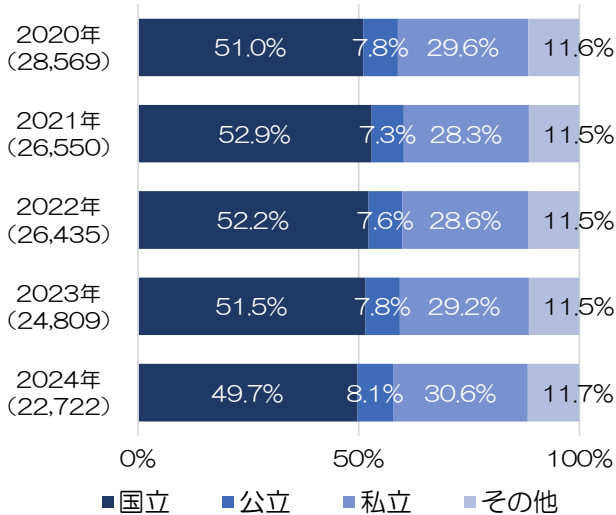


配分額（合計）
(単位：千円)



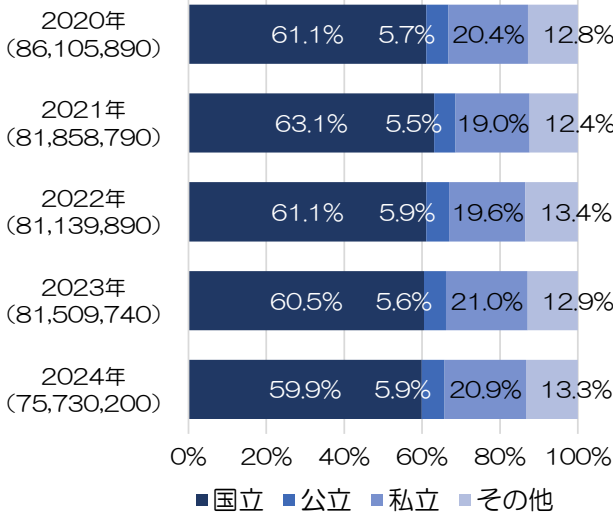
研究機関種別採択件数割合

（年度、
カッコ内は総採択件数（単位：件））



研究機関種別配分額（合計）割合

（年度、
カッコ内は総配分額（合計、単位：千円））



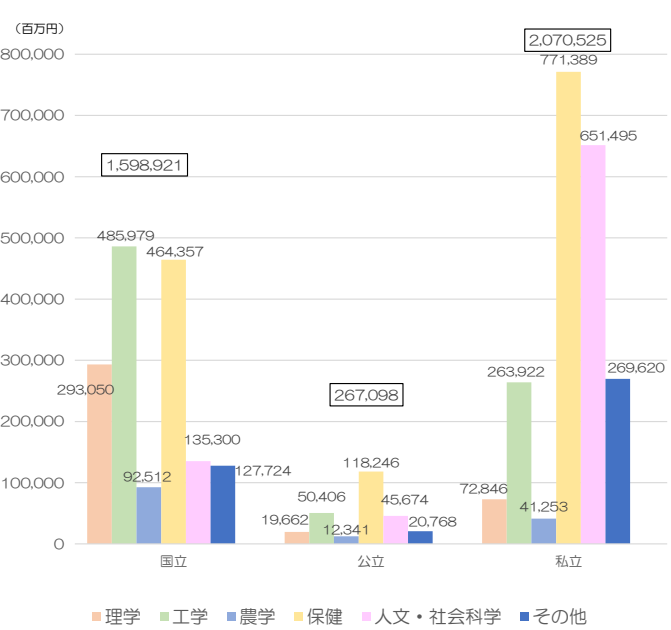
（注1）「特別推進研究」、「学術変革領域研究（A）」（計画研究及び公募研究）、「学術変革領域研究（B）」（計画研究）、「基盤研究」（特設分野研究を除く）、及び「若手研究」について分類。
（注2）研究代表者が所属している研究機関により整理しているため、研究分担者の分担金を反映した配分の実態を示すものではない。
（注3）四捨五入の関係上、合計と内訳の数値が一致しないことがある。
（注4）研究者登録人数は、令和5年11月時点での所属により分類。
（出典）日本学術振興会「研究者が所属する研究機関種別 配分状況表（令和6年度 新規採択分）」より国立大学協会事務局作成

7. 研究(2)

7-2. 組織・学問別研究費

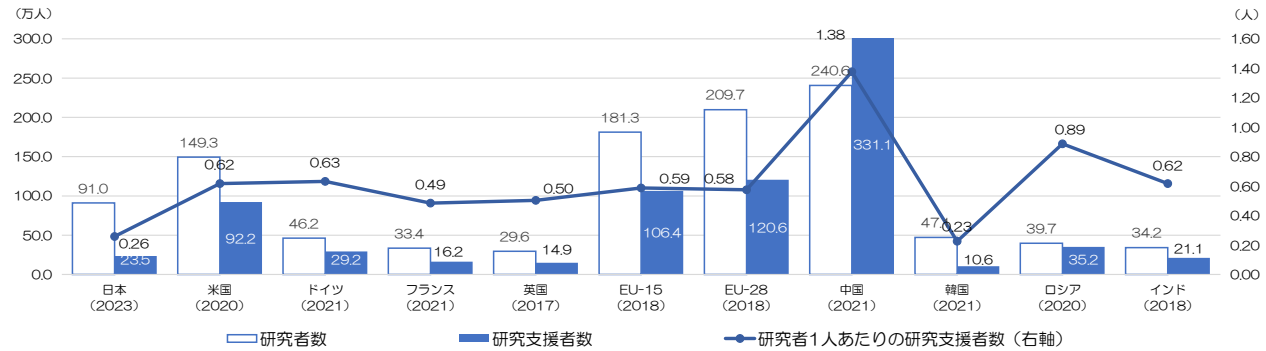
(単位: 百万円)

	全体	国立	公立	私立	
総 計	3,936,544	1,598,921	267,098	2,070,525	
自然科学	2,685,963	1,335,898	200,655	1,149,410	
	理学	385,558	293,050	19,662	72,846
	工学	800,307	485,979	50,406	263,922
	農学	146,106	92,512	12,341	41,253
	保健	1,353,992	464,357	118,246	771,389
人文・社会科学	832,470	135,300	45,674	651,495	
その他	418,111	127,724	20,768	269,620	



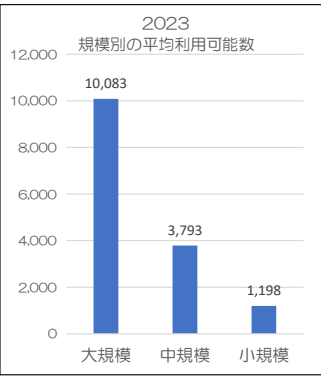
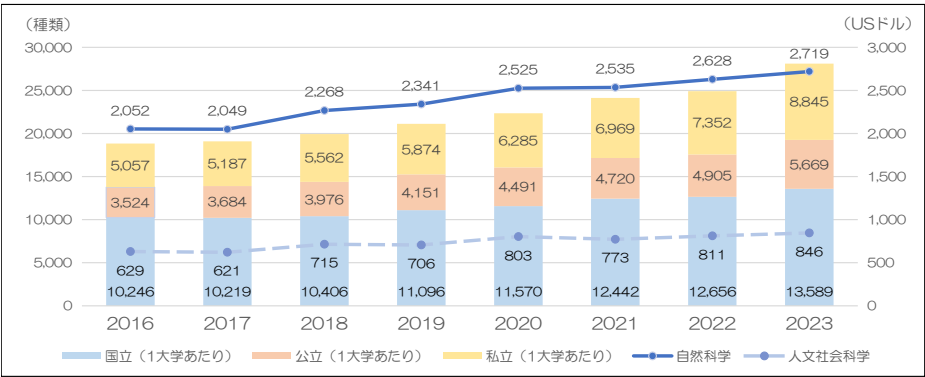
(注1) 研究費の内訳は、人件費、原材料費、有形固定資産購入費、無形固定資産購入費、リース料、その他の経費である。
(注2) 2024年に実施された調査の結果であり、研究費は調査年の3月31日又はその直近の決算日から遡る1年間の実績である。
(出典) 総務省『科学技術研究調査』(2024)より国立大学協会事務局作成

7-3. 主要国等の研究者1人当たりの研究支援者数



(注1) 研究者1人当たりの研究支援者数は研究者数及び研究支援者数より文部科学省で試算。
(注2) 各国とも人文・社会科学を含む。
(注3) 研究支援者は研究者を補助する者、研究に付随する技術的サービスを行う者及び研究事務に従事する者で、日本は研究補助者、技能者及び研究事務その他の関係者である。
(注4) フランスの値は推計値である。
(注5) 英国の研究者数の値は暫定値であり、研究支援者数の値は過小評価されている。
(注6) EUの値はOECDによる推計値である。
(出典) 文部科学省『科学技術要覧』(2023)より国立大学協会事務局作成(令和6年5月31日時点)

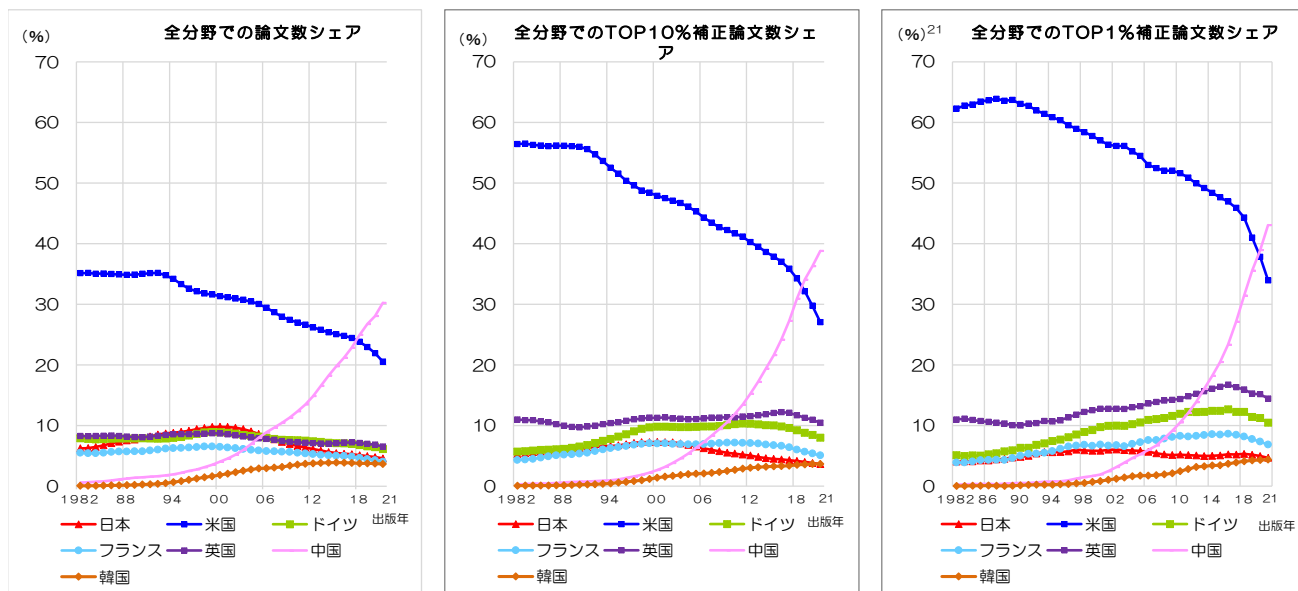
7-4. 電子ジャーナルの利用可能種類・平均単価、大学規模別の平均利用可能数



(注) 大学規模は、専任教員・学部生・大学院生の合計数が15,000人以上を大規模、5,000人以上15,000人未満を中規模、5,000人未満を小規模とする。
(出典) 文部科学省「学術情報基盤実態調査」(各年度)(当該年度末時点)及び大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)公表資料より国立大学協会事務局作成

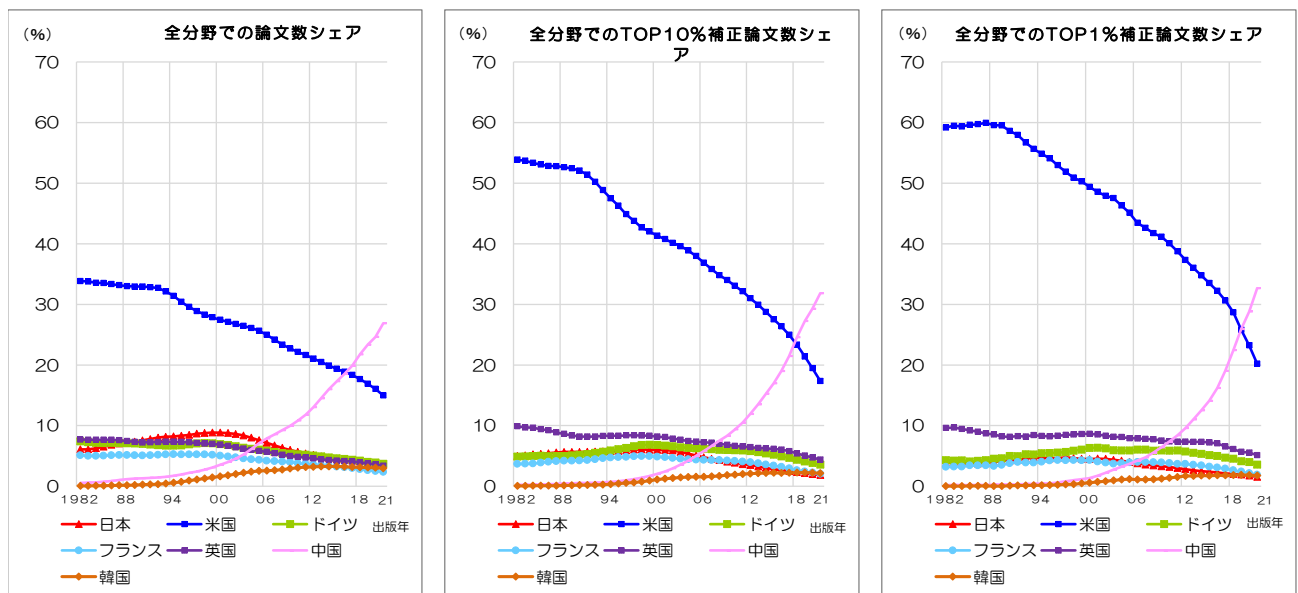
7. 研究(3)

7-5. 主要国の論文数、Top10%補正論文数、Top1%補正論文数シェアの変化（全分野、整数カウント法、3年移動平均）



(注) 分析対象は、Article、Reviewである。年の集計は出版年（Publication year, PY）を用いた。全分野での論文数シェアの3年移動平均（2021年であればPY2020、PY2021、PY2022年の平均値）
整数カウント法である。被引用数は、2023年末の値を用いている。Top10%（及びTop1%）補正論文数は22分野ごとに抽出しているため、分野分類できない論文は除外して算出している。
(出典) 文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2023」を基に、国立大学協会が加工・作成

7-6. 主要国の論文数、Top10%補正論文数、Top1%補正論文数シェアの変化（全分野、分数カウント法、3年移動平均）



(注) 分析対象は、Article、Reviewである。年の集計は出版年（Publication year, PY）を用いた。全分野での論文数シェアの3年移動平均（2021年であればPY2020、PY2021、PY2022年の平均値）
分数カウント法である。被引用数は、2023年末の値を用いている。Top10%（及びTop1%）補正論文数は22分野ごとに抽出しているため、分野分類できない論文は除外して算出している。
(出典) 文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2023」を基に、国立大学協会が加工・作成

7. 研究(4)

7-7. 国内機関における論文数等ランキング

・総合（世界12位）

国内順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文割合(%)
1	東京大学	1,656	1.6%
2	京都大学	1,007	1.4%
3	理化学研究所	694	2.3%
4	大阪大学	579	1.1%
5	東北大学	552	1.0%
6	物質・材料研究機構	551	3.2%
7	名古屋大学	492	1.2%
8	九州大学	469	1.2%
9	北海道大学	401	1.0%
10	国立がん研究センター	389	3.7%

・化学（世界7位）

国内順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文割合(%)
1	京都大学	156	1.4%
2	東京大学	135	1.3%
3	物質・材料研究機構	121	2.9%
4	産業技術総合研究所	79	1.3%
5	北海道大学	73	1.2%
6	九州大学	62	1.1%
7	大阪大学	61	0.7%
8	東京工業大学	51	0.8%
9	名古屋大学	46	0.9%
10	理化学研究所	45	1.1%

・物理（世界5位）

国内順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文割合(%)
1	東京大学	396	2.3%
2	物質・材料研究機構	226	4.5%
3	理化学研究所	217	2.6%
4	京都大学	172	1.9%
5	大阪大学	133	1.5%
6	高エネルギー加速器研究機構	120	2.4%
7	東北大学	120	1.3%
8	東京工業大学	111	1.9%
9	名古屋大学	108	1.7%
10	筑波大学	75	1.6%

・材料科学（世界9位）

国内順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文割合(%)
1	物質・材料研究機構	149	2.2%
2	東京大学	76	1.4%
3	東北大学	52	0.7%
4	産業技術総合研究所	47	1.2%
5	京都大学	35	0.9%
6	理化学研究所	32	2.6%
6	九州大学	32	0.9%
8	早稲田大学	25	2.4%
9	北海道大学	23	0.9%
10	東京工業大学	23	0.6%

・植物・動物学（世界11位）

国内順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文割合(%)
1	理化学研究所	88	5.5%
2	東京大学	88	1.8%
3	名古屋大学	51	3.2%
4	京都大学	49	1.2%
5	岡山大学	36	3.1%
6	農業・食品産業技術総合研究機構	35	1.3%
6	東北大学	31	2.0%
8	北海道大学	25	0.7%
9	奈良先端科学技術大学	23	4.3%
10	筑波大学	22	1.5%

・免疫学（世界11位）

国内順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文割合(%)
1	大阪大学	33	2.4%
2	理化学研究所	28	4.2%
3	京都大学	25	2.1%
4	慶應義塾大学	20	1.4%
5	東京大学	20	2.5%
6	広島大学	16	3.7%
7	東京医科歯科大学	16	2.8%
8	北海道大学	13	2.5%
9	千葉大学	12	1.3%
10	国立感染症研究所	9	3.7%

・地球科学（世界11位）

国内順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文割合(%)
1	東京大学	86	1.4%
2	海洋研究開発機構	73	1.8%
3	国立環境研究所	61	5.1%
4	名古屋大学	37	1.9%
5	気象研究所	34	2.6%
6	北海道大学	34	1.3%
7	気象庁	31	3.2%
8	京都大学	28	0.9%
9	宇宙航空研究開発機構	22	2.6%
9	九州大学	22	1.3%

(注1) 日本の研究機関が著者所属機関に含まれる高被引用論文の総計が、世界順位で上位の分野から、日本の大学・研究機関を抽出している。
(注2) 世界順位は、分野別における高被引用論文の総計の順位。
(出典) クラリベイト・アナリティクス「インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキング 2024年版を発表」(2024年6月3日)より
国立大学協会事務局作成